

世界と日本の歴史を学びました

2026年2月23日～25日にかけて、社会科教育学ゼミでは、徳島～愛媛～広島とフィールドワークを実施しました。

徳島県では、鳴門市にある大塚国際美術館を見学しました。ここでは、西洋美術史の有名な絵画が原寸大で再現されています。陶板に焼き付けてあるので、館内ではスマホで写真が撮り放題でした。美術館入り口の正面には、ローマにあるシステーナ礼拝堂が再現されており、ミケランジェロが描いた天井画の「天地創造」、正面祭壇画の「最後の審判」を見ることができました。あまりの壮大さにゼミ生全員が圧倒されてしまいました。他にも、ラファエロの「アテネの学堂」、レンブラントの「夜警」、ドラクロワの「民衆を導く自由の女神」、ダヴィッドの「ナポレオン一世の戴冠式と皇妃ジョセフィーヌの戴冠」、ピカソの「ゲルニカ」など、実際に見てみると非常に大きく、その圧倒的な迫力を感じることができました。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は、修復前と後とが展示されており、ゆったりとした空間で美術史上の傑作をじっくり眺めることができました。古代ギリシアから現代美術まで、事前学習で学んだことをもとに見て回することで、西洋美術史の変遷を通じて、ヨーロッパの社会や文化、人々の感性の変化といった様々な内容を学ぶことができました。

2日目は、香川県の高松城を見学し、昼食は讃岐うどんを食べました。学生たちは「全然違う!おいしい!もう一軒行こう!」と、本場の味を感じていました。昼食後は、愛媛県に向かいました。愛媛県松山市では「坂の上の雲ミュージアム」を見学しました。ここは、明治維新を経て近代国家へと生まれ変わろうとしていた日本がロシアと戦った日露戦争における松山出身の秋山真之・好古兄弟らの活躍を描いた司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の記念館です。記念館で当時の手紙や写真、電信機(モールス信号を打つ機械)、日露戦争で使用された銃剣などを見ることを通して、日露戦争の日本史や世界史における位置づけを学ぶことができました。

最終日は厳島神社に行きました。厳島神社では宮司の方から、厳島神社の成り立ち、海の上に神社がある意味、自然環境と共生することの重要性などについてお話を伺いました。厳島神社は何度も天災に遭い、遭うたびに先人たちが復興してきたことについて宮司の方が、「私たちも何百年後の人たちのために、この神社と自然を守っていかなければなりません」と言われたのが印象に残りました。

フィールドワークでは、世界史、日本史、伝統文化に関わる土地や建物をめぐり、学びを深めることができました。この経験は、学校現場に出てから必ず役立つと思います。この思い出を忘れずに、さらに精進していきましょう!

